

第4回 自治基本条例をつくる市民会議

テーマ：市長・議会にはこうあってほしい

～市長・議員・議会の責務～

日時：平成20年10月8日（水） 場所：コミュニティセンター3階会議室

今回の市民会議は、市長・議員という市民代表の役割や責務について検討することが目的であった。市長・議会のあり方について検討するためには、関連する法律や制度の理解が不可欠なことから、まず、ファシリテーターが「自治体議会と長の役割」についての解説を行い、その後、3つのグループに分かれて現行の制度や小諸市の現状についての質問や意見交換を行った。参加者の意見の出しやすさを考慮して、グループごとに会議を進めたが、3グループが同じ説明資料に沿って同じ手順を進めたため、まとめは本資料1つに統合している。

議会と首長に関連する制度は、一般市民にはあまり知られていなかったため、発言の多くが質問や確認であった。市民の問いかけに対して、議員経験のある市民が答えるという形で意見交換が進んだため、以下の記録は、質問 質問・意見に対するコメントという形で整理した。

意見交換の中には、現在の小諸市議会が抱える課題や議会活性化のための改善方向などが示されており、今後、自治基本条例や議会基本条例を検討する際に参考になる意見が得られた。



市民会議の前半では「自治体議会と長の役割」として国会との違いや議会で決めること、議会の権限のほか、市長の役割や市長と議会の関係などの確認を行いました。

1.現在の議員・議会についての質問、意見

<p>【質問】 議会で予算を組むことが出来ないとのことであるが、各区で予算要望を上げるにはどうしたらよいか？議員に言ってもだめなのか？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p>行政は、市民からの要望も聞いて予算を組むが、各区ごとに予算査定をして予算をつくることはしていない。これまでの実績をベースに全体としてのバランスを見ながら予算を作る。</p> <p>住民側から行政に対して、予算を公的に直接要求することはできない。現状では陳情という形しかない。</p>
<p>【質問】 議会は市長が提案した予算案に対して実際に修正を加えることがほとんどないと聞いたが、それでチェックの役割を果たせるのか？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p>実際には各委員会で協議している。本会議では協議した結果を正式に決議する場という認識があり、そこで修正案を出すことは市長に対する不信任を意味する。実際に予算の不足が予想される場合などは、その場で予算の修正をするのではなく、修正提案を出して補正予算を組むことで対応している。</p>
<p>【質問】 議会は3つの仕組み（本会議・委員会・全員協議会）から成り立っているが、機能しているか？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p>議会は、3つの仕組みで行っているからうまくいっている。本会議は決定の場であり、各種委員会では、細かい予算について話し合っている。全員協議会は、本会議の前の調整の場である。</p>
<p>【質問】 議会は市長を監視しなければならないが、その機能が果たせているかどうか疑問である。なぜ首長に比べ、議会の力が弱いのか？議会の力を強めることはできないか？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p>これまで審議されてきた議案のほとんどは、首長提案のものであった。実際に、議員提案によって制定された条例数も少ない。制度的に首長が強いということはあるが、議員からの提案自体が少なく、権利を行使してこなかったため、力を発揮しきれなかったと言えるかもしれない。議会からも積極的に提案をすることにより、議会の力を強めていく必要がある。</p>

	<p>議会より市長の権限が強い。議会は、市長の出した予算について追認することが多く、それを覆すことがなかなか難しい。議員の中には、議会では賛成しておくことが良いことだと考えているものもいるため、議会として覆そうとしても、議員内でコンセンサスが図れないような状況もある。</p>
	<p>議会が市長に対して立場が弱いのは事実である。議会の招集などは議員側でできるようにするなど、議会の権限を強めるような方向に持っていくべき。</p>
<p>【質問】 議会での決議事項は現状のままでよいのか？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p>水道料は議会での決議事項ではあるが、保育料はそうではない。つまり、議会では知らないうちに、保育料が決定されてしまうことがある。この事例のような問題を防ぐ、つまり議会のチェック機能を高めるため、議会での決議事項を増やす必要があると思われる。</p>
<p>【質問】 議員定数は適正か？</p>	
<p>対する質問・意見コメント</p>	<p><u>適性</u> 以前の小諸市は、議員定数 24 人で 4 つの委員会を運営していた。現在は、議員定数が 21 人で 3 つの委員会である。それぞれの委員会に適正人数がいないと議論が活性化しない。そのため、現在の定数は、議論が活発に行われる適正数だと思われる。これ以上減らしてしまうと、活発な議論ができない。また、市民が意見・要望を伝える窓口も少なくなってしまう。</p> <p><u>多すぎる</u> 議員定数は多いと思う。佐久市では、人口規模は倍あるにも関わらず、議員定数は少ない(34人)。小諸市ももっと削減することが可能なのではないか？</p> <p><u>議員による</u> 議員の資質によるのではないか？議員活動をしっかりやってくれるのであれば、もっと多くてもいいが、しっかりとやらないのであれば減らすべきである。</p>

<p>【質問】 議員報酬は適正か？</p>	
<p>質問・意見に 対するコメント</p>	<p><u>少ない</u></p> <p>現在の議員報酬では、少ない。議員報酬だけでは生計を立てられないので、立候補を諦める市民がいるという話も聞いている。今の報酬では、家族を養っている若い世代が議員になることは難しいため、議員の代表性、議会の将来性ともに不安を感じる。</p>
	<p><u>適性</u></p> <p>金銭的には決して裕福とは言えないが、それでもやるという気概のある人でないと議員はつとまらない。現在の報酬のできる方に任せるべき。</p>
	<p><u>議員の資質による</u></p> <p>議員の資質によるのではないか？議員活動をしっかりやってくれるのであれば、もっと多くてもいいが、しっかりとやらないのであれば減らすべきである</p>
	<p><u>仕事の内容によって差をつけるべき</u></p> <p>議員報酬は議長、副議長、議員の3種類しかなく、議員活動の内容に比例しない。活動の内容によって差をつけることはできないか？</p>
<p>【質問】 政務調査費は現状のままでよいのか？ 少なければ調査を行政に任せることはできないのか？</p>	
<p>質問・意見に 対するコメント</p>	<p><u>少ない</u></p> <p>以前まで年額4万円であったため、現在の月額9000円・年額約11万円は増額されたものである。しかし、これだけでは、議会報告の印刷物を作るにも赤字になってしまい、報酬を切り崩して充てている状況である。また、事例視察や勉強会などに参加することを考えると、2-3回で底を突いてしまうため、十分とは言えない。</p>
	<p><u>調査力を強化する方法</u></p> <p>現在の調査費だけで政策を検討するための情報収集は難しい。しかし、議員と首長は独立した機関であるため、議員が行政に直接調査を指示することは制度上できない。議会の事務を担当する議会事務局の人員を厚くすることができれば調査力を強化することができるが、小諸の都市の規模からは強化が難しいのが現状。</p>

【質問】	
今の条例は、問題を起こした議員を免職するのに十分な効力を持っているのか？	
質問・意見に 対するコメント	<p>現行条例では「<input type="text"/>をした場合、議員を辞めなければならない」のように、はっきりとした免職条件は示されておらず、交通事故等を起こした場合にも、免職させるのに十分な効力は持っていない。よって、市民からのリコールなどが無ければ、免職することはできない。現在話題になっている問題を起こした議員の処遇を巡り、さらなる問題が起きないように、現行条例をより詳細に検討・修正する必要があるのではないだろうか。</p>
【質問】	
市民と議会での情報交換は不十分では無いのか？	
質問・意見に 対するコメント	<p>議会に対する市民の意向を汲み取ることは重要であるが、議員によって取組み方がまちまちであるように思える。なにか仕組みをつくるべきだろう。</p> <p>小諸市議会では、議会改革の一環として、年6回の予定で来月から議会活動の説明会を開催する予定である。これまでは、議員が自らの出身地区で後援者などに対して議会報告をすることはあったが、今回の試みは、抽選で出身地区以外に全議員を割り振って説明会を行うことに特徴がある。どれくらいの市民が参加してくれるかわからないが、このような地道な情報提供、情報交換の場を議会として設けようとしているところである。</p> <p>議会側から、市民への報告も重要である。市民の意見を聞く、議会の様子を報告する、この両方を行うことは、議会の質を高めるだけではなく、市民の議会に対する関心や自治意識を高めることにもつながるのではないだろうか。</p>

2.市長、市長選のあり方についての意見

【質問】	
市長選挙が無投票選挙でもマニフェストが評価されたといえるのか？	
質問・意見に 対するコメント	複数の候補者同士の論戦が行われた上で首長が当選したのであれば、マニフェストは評価されたといえると思う。このため、マニフェストの評価（＝選挙での論戦）を行うためには、ぜひ複数候補者による市長選を行うべきだ。市民はそのことを理解する必要がある。また、現実には難しい場合もあるが、その理解に基づき、無投票選挙を防ぐために出馬する人が出現すれば、なお良い。
	現市長がマニフェストを活用した選挙を提唱したことは評価し、今後も継続させるべきことだと思う。
	マニフェストには実現可能な目標ばかり載せても意味がない。ある程度高い目標を定めて、それを実際に達成できたかどうかを評価すべき。そのためにも、議会や市民がマニフェストを評価できる目を持つ必要がある。



各グループのまとめをファシリテーターが発表し、参加者で意見を共有しました。